

献呈の辞

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学政治経済研究所 公開日: 2009-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中邨, 章 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/1892

献呈の辞

明治大学政治経済学部において1956年来、45年近くにわたって教育と研究に数々の業績を積んでこられた沖田哲也教授が、2000年11月に古希を迎えられた。そして、2001年3月末をもって大学を去られることになった。これまで多数のものが、先生からいろいろな形で学恩を受けてきている。それらのものは、ひとしく、先生が古希を迎えられたことを心からお喜びしている。しかしその一方で、先生が退職されることにつよい淋しさをおぼえる。

沖田教授はDNAに明治大学が深く刻み込まれた「明治人」である。先生のこれまでのご経歴は、ほとんど明治大学とともにあったといってよい。先生は1953年に本学政経学部政治学科を卒業され、すぐに大学院に進学された。1955年には、政治学専攻で修士号を取得されている。その直後、1956年に政治経済学部の助手に就かれ、4年後の1960年には専任講師、1963年助教授、そして、1968年から教授をつとめられてきている。明治大学での教授歴は、助手時代から数えて実に45年に及ぶ。

1960年に専任講師に就任されてから、先生は指導教授であった弓削七郎博士の講座を引き継がれ、以後、40年間、地方自治論を一筋に担当されてきた。ときには講義を実践に結びつけるため、現在の行政研究所の前身である地方行政研究所を創設されている。明治大学から公務員を輩出するのがその目的であったが、

その成果は現在、全国的な広がりを見せてきている。47 都道府県のすべてに、明治大学行政研究所の出身者であり、沖田教授の「クロン人材」である貴重な卒業生がめざましい活躍をしている。

もとより、沖田教授の学風をひと言で形容するのは困難である。先生の学問的興味は、国内では都市問題や自治体合併、さらには広域行政から公務員制度や地方議会など、多岐多様にわたる。外国に関しては、先生は久しくアメリカの地方自治に焦点を合わせた研究をつづけてこられた。その後、関心はカナダにも及んで、ここ数年はカナダにおける地方自治の成立史を精力的に分析されてきている。これは多分に先生が1990年から数年間、明治大学国際交流センターの所長をされたことにも関係があるような気がする。明治大学において「カナダ講座」が今日のように定着し、全国的に知られるようになった素地をつくられたのが、ほかならぬ沖田教授であった。

沖田教授は「学問の人」であると同時に「地図の人」であり、「ファッション」の人である。わたくしは1970年代中頃、先生とアジア各地を旅行した経験がある。現地につくと、先生はまず地図を広げそれぞれの都市を慎重に検討された。政府役所の所在地をはじめ名所旧跡の方向を丹念に調べられるのが、常であった。先生のご趣味の一つが、見知らないまちに着くと地図をとり出し、町中を歩き回ることであることをその時はじめて知った。その後、10年近く、毎夏、わたくしは先生とアメリカ各地を回る経験をしたが、ニューヨークやボストンで先生の方向感覚と地理感に助けられることがしばしばに及んだ。

沖田教授が「ファッション」の人であることは、あらためて指摘するまでもない。大学教授というステレオタイプにおさまらないのが、沖田教授のファッションに関するこだわりである。すばらしいスーツとタイ、それにコートなど、わたくしを含めて多くの後輩にとっては今でも垂涎の的である。ダンディな沖田教授の後ろ姿が、研究棟7階で見ることが出来なくなると思うと淋しさもひとしおである。

後輩を代表して、沖田教授のこれからのご健康とご清栄をお祈りし、あわせて、明治大学、ことに政治経済学部に対する先生の長年にわたるご貢献に敬意と深謝の意を表したいと思う。

2000年11月21日

政治経済学部教授

中 邨 章